

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104500		
法人名	有限会社ゆう		
事業所名	グループホームGARDEN-HOUSE		
所在地	長崎県長崎市宝栄町4番19号		
自己評価作成日	令和5年12月19日	評価結果市町村受理日	令和6年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和6年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で以前のように外出の機会が減少している中で、ホーム周辺の散歩やドライブ、花見など少しずつ外出の機会を増やし、活動の範囲が増えるように努めている。又、ホームでの行事も誕生会や季節行事の他に、季節が味わえる行事も増やししながら、笑顔が多く見られる生活が送れるように努めている。感染症での生活の変化を受けて、出来なくなった事だけを諦めるのではなく、出来る楽しみを増やせるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念“笑顔”や経営理念にある“自分や自分の家族が受けたい介護”を念頭に職員は支援している。日常的に周辺の好みのコースを散歩したり、帰りにおやつを買って帰るなど気軽な外出ができています。ホーム名“GARDEN-HOUSE”のとおり、畑やプランターに野菜や花々を植えており、入居者が植物の水やりや花づくりを日課とし、職員にも栽培法を助言する姿が見られる。また、針仕事や洗濯干し、新聞畳み、食事の準備や片付けなど、趣味やスキルを活かす支援は本人の居場所づくりに繋がっている。運営推進会議の議事録を全家族に送付する他、メールやLINEによるやり取りや動画等で丁寧に情報を伝え絆が深まっている。職員は菜園で野菜を収穫し食材に取り入れ、全て手作りで豊かな食事を提供し、入居者に時にはユーモアを交えながら温かく接しており、和気藹々と笑顔で過ごせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は毎朝唱和しており、共有し実践につなげている。	理念“笑顔”と経営理念を、毎朝申し送り時に唱和し共有に努め、業務優先にならないよう、都度理念に立ち返ることを心掛けている。更に、自分や自分の家族が受けたい介護も念頭に置いている。ホームの畑やプランターで入居者が植物の水やりを日課にするなど趣味やスキルを活かし笑顔で過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナなどもあり、面会が窓越しや、テレビ電話での対応の時期もあり、現在も生活スペースの立ち入りは規制しており、面会スペースでの面会交流となっている。現在は外出や外泊も状況に応じて交流が出来るようになっているが、以前に比べ機会は減少している。	自治会に加入し、ホーム長が自治会や青年部役員に就いている。地区の夏祭りも担当しており、今年度はコロナ5類移行後、入居者も夏祭りに参加予定であったが、沢山の人で賑わっていたため、感染リスクがあり中止している。日常的に入居者は、ホーム周辺を好みのコースで散歩し地域住民と挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様のホーム周辺の散歩のときなどに挨拶や、少しの会話ではあるが、認知症の方と関りを作り、理解を少しでも深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、以前はホームで集まり開催していたが、コロナの為、書面での開催としている。電話やメール、ホームに来られた時に意見や感想を頂き、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍で書面による開催を継続し、規程の6回で実施している。委員である行政、住民代表、全家族に、入居者の状況や活動内容等を書類送付している。その後、返信内容を会議報告書としてまとめている。ただし、その内容は議事録に掲載しておらず、各委員への送付も行っていないため意見内容は留まった状態である。	運営推進会議の意義に立ち返り、書面会議においても、運営推進委員から意見等を議事録に掲載し、双方向の意見や感想を共有していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症などの発生時等には特に連絡や相談を積極的に行った。	市担当課の定期的な訪問がある他、行政から案内がある研修に職員が参加している。日頃から運営に必要な通知がメールや郵送で届いており、不明な点は問い合わせで情報を得ている。家族の代わりに担当課で手続きを行ったり、ホームの実情や支援の状況を積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しない事を実践している。玄関の施錠は防犯上必要な時間は行っている。玄関の施錠も通常のタイプのカギを使用している。2階勝手口は危険防止もあり、日中も施錠している。	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回、内部研修と併せて開催している。日頃から自分の親だったらと立ち返り、尊厳やプライバシーを守る視点を持つよう努めている。言葉の拘束については、その都度検討し、勤続年数が長い職員が新人職員に関わり方を助言するなど、拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待などは、言葉かけなどは特に見過ごされないよう、管理者、職員同士でも気になる事があれば、互いに伝え、考え、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者様もあり、職員も理解できている。又、必要性があると思われる関係者とも話し合いを進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前から、不安や疑問は都度尋ね、締結時や、締結後も電話やホームへ来られた時には不安や疑問等は都度尋ね説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様の意見や要望は聞いており、利用者様の要望でご家族の力が必要な場合は相談し、出来るだけ意見の反映が出来るように努めている。	苦情相談の窓口を明文化し、家族に説明している。家族に入居者の状況や健康状態をLINEや動画、手紙、電話で伝え不安軽減に努めている。また、運営推進会議議事録を送付し、事業所への理解に繋げる他、LINEのテレビ電話の導入は喜ばれ、野菜の栽培や収穫方法など家族の協力がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は管理者はいつでも提案は聞ける体制は出来ており、反映できるように努めている。	職員は毎月の職員会議や日常業務の中で、要望を出している。管理者は気になる職員へ声掛けや個人面談を実施し要望を聞き取っている。また、スキルアップへの補助や勤務の配慮など援助があり、モチベーションアップへ繋げている。ケアに必要な物は取り入れ、シャワーキャリーの買い替えなど職員意見の反映は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者へ職員個々の状況の把握と向上心を持って働けるよう環境整備できる環境を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのために資格取得に関する学校での支援や、事業所内で先輩職員からの指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との研修の参加などは少なくなっているが、リモートでの勉強会に参加したりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、環境の変化からの不安も大きくなる為、積極的に話しかけ、傾聴し見覚えのある顔に早く慣れるように努め、関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より困っている事を伺い、要望に応えながら、ホームでの生活に安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、ホームで出来るサービス、外部も含めたサービスも対応し、本人、家族が納得できるサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝い等、出来る事は一緒に行い、出来る限り、家庭でしている出来る事は共に言い、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が負担になりすぎず、スムーズな関係が保てるように、相談しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外のなじみの方が面会に来られたりしており、支援に努めている。	面会には家族や親戚、自宅近辺の住民などが訪れている。5類移行後も面会の制限は継続しているが、家族との外出は緩和し、外出や自宅での外泊、墓参りへ出掛けている。職員と拘りの茶の葉を買いに出掛けている人もいる。職員は生活歴を把握し、読書等の習慣や編み物、縫物、手作業など趣味の継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う方との席のセッティングや、職員が入り、コミュニケーションのフォローなどを行い、利用者様同士の関りなどの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談事などあればメールや電話を頂いたりしており、その後の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが取れる方は聞きとり、困難な場合の方も、本人本位に検討している。	職員は入浴や散歩、夜勤時やリビングで入居者と1対1の時間を意識し会話を心掛けている。発語困難やコミュニケーションが苦手な入居者は筆談やジェスチャーの他、表情や家族へ尋ね推測している。聞き取った思いや新たな情報はその日のうちに口頭で職員へ伝え、また、介護記録へ記載し共有し、計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等は入居時に家族からも聞き取り、入居後も入居者様本人より聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の状況を把握し、有する力などの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の方にはご要望を伺い、必要な課題とケア、その状況をご家族に伝え、再度ご意見やご要望を伺い、計画作成している。	事前資料や面会等で得た内容から短期6ヶ月、長期12ヶ月の設定で、介護計画を作成している。毎朝の申し送りや定期的なモニタリングで課題検討を行い、その都度本人・家族の意向を取り入れて計画を見直している。ソフト導入により日々の介護記録を入力しているが、計画と介護記録との連動が確認できない状況である。	導入ソフトを活用し、計画と介護記録を連動するための方法の検証、工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランは常に確認できる環境を整えている。職員間で共有し見直し出るようには生かしているが、日々の記録が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のサービスを利用したりしており、本人・ご家族のニーズに対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部サービスを利用し、ホーム外での人々とのつながりを増やし楽しみ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望の係りつけ医との関りを継続し、医師と事業所も関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者は複数の協力医の定期的な往診を受けている。かかりつけ医を継続する入居者もあり、家族同行により結果報告を受け、記録している。職員同行の際も家族との情報共有に努めている。日頃からかかりつけ医の看護師に相談し、連携を図っている。緊急時は主治医と連携し、適切に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師はいない為、それぞれの係りつけ医の看護が適切に受けられるように、都度相談し支援が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、病院関係者との情報交換は早期より行っており、互いの情報を共有し、早期に退院できるように関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針は説明しており、身体状況の把握をしながら、ご家族へのその後の方針を共有し、支援に取り組んでいる。	昨年主治医、家族の協力により1例事例があるが、基本的に看取りを行わない方針である。利用開始時に、重度化した場合における指針の中で看取りのあり方も含め、家族に説明し同意を得ている。重度化の折は、家族に特別養護老人ホームへの申込みや医療機関への入院などが必要となる旨を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回の消防署立ち合いの総合訓練の時に、救命講習を受けている。ケガなどの手当などは外科の往診に来られた時に、処置の方法等を指導して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害の訓練は、1階から2階への入居者様の避難の訓練や火災の訓練を行っている。ホーム長もの地域の消防団に入っており、協力体制を築いている。火災防止の対策として、ホーム周辺の燃えやすいもの等をおかない様にしている。	毎月の自主訓練では通報・消火訓練、夜間想定避難訓練等が確認できる。総合訓練は年1回実施し、消防署立会いの総評から課題を抽出している。自然災害は今年度10月水災害想定垂直避難訓練を実施している。ただし、BCP作成中でマニュアルの見直しや地震時の避難場所の選定などはこれからである。	自然災害対策として、マニュアルの再検討と職員への周知の他、立地条件に即した避難場所の選定が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーをそこねない言葉かけや対応をしている。	職員は入居者の人格を尊重し、呼び掛けは苗字にさん付けである。慣れ合いの無い会話を心掛け、入浴や排泄介助時は羞恥心に配慮したさりげない支援に努めている。個人情報の取り扱いは、写真掲載を含め家族の同意の署名を得ている。また、職員は守秘義務の誓約書を提出し理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表現などは常に出来る状態にあり、選択肢がある時は自己決定できるように問いかけている。自己決定できない場合本人本位で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、飲水、おやつ等大まかな事は決まっているが、決まった時間のこだわりなどは無く、その日にしたい事などの希望があればペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、髪を結んだり、ピンでとめたり、その日の気分でおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いや、食器拭き等の手伝い、メニューなど意見を取り入れながら支援している。	3食とも職員手作りが基本であり、シフトによっては配食を利用している。当番職員がその日の献立と菜園や旬の野菜を使い調理し、入居者は野菜の下ごしらえや台ふきなどを受け持っている。アレルギーや嗜好、嚥下に対応している。行事食や誕生日の手作りケーキや入居者とのおやつ作りなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の量は把握し、不測の場合は補えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、個々の能力に合わせて介助している。夕食後は義歯の方は預かり、清掃消毒管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンに合わせてトイレ誘導し、トイレでの排泄できるように支援している。夜間帯のみトイレ誘導が厳しい方は居室にポータブルトイレを設置して誘導している。	タブレットを活用し排泄をチェックして、職員で共有し声掛けや誘導を行っている。日中はトイレでの座位排泄である。夜間使用のポータブルトイレは都度洗浄し、気持ちよい排泄となるよう心掛けている。また、本人に合った排泄介助方法やパッド類の検討を行っている。支援の結果、パッド使用数が減少した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理もしており、飲み物の摂取や、トイレでのお腹のマッサージを実施、それでも厳しい時には内服薬などの調整を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、お湯の温度の希望や、入るタイミングの希望により入浴を楽しめる支援をしている。	入浴は週3回を基本としており、本人の気分や体調に臨機応変に対応し、シャワー浴や湯の温度等も本人の希望に沿っている。車椅子の入居者も浴槽へ浸っている。同性介助や好みのシャンプー類の持ち込みにも対応している。また、入浴剤や季節のゆず湯、菖蒲湯等入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力等も考慮して休息がされるようにしている。日中の休息時間が夜間帯の睡眠に支障が出ない様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況はタブレットにて確認でき、薬の変更等がある場合情報を共有し、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな役割を持って頂き、家事や趣味などが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温を考慮し、散歩や畑へ出かけられるように支援している。ご家族との外出も、コロナの時期は遠慮して頂いていたが、現在は再開し、外出できるように支援している。	近くの公園の桜見物や車中からの桜巡りドライブ、ランタンフェスティバルなど車椅子の入居者も出掛けている。天気の良い日の散歩は頻繁で、長時間歩く入居者もいる。また、プランター栽培の花や野菜の世話をしたり、職員同行で近くのコンビニへ菓子を買いに行く等、コロナ5類移行後も感染リスクを避けて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームでは現金は預からない事になっているが、個人で現金を管理希望の方は、ご家族や後見人と金額などを話し合い、所持し使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは希望がある時は出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション等で季節に応じた作品を飾ったり、日図家がわかりやすい様にカレンダーを作ったりして季節感が伝わりやすいようにしている。テレビ視聴時には、カーテンなどで明かりの調整も都度している。	リビングにはクッション付きソファが並び、居心地よい座位を保てるよう配慮している。入居者は針仕事や洗濯干し、新聞畳み、食事の準備や片付け、畑やプランターの水やり、土仕事など役割をもって生き活きと過ごしている。職員は季節を感じる掲示物を工夫している他、換気や温度調節により清潔な環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、気の合った利用者で過ごしたり、花壇で花の世話をしたり、個々のペースで過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や、持ち込み物の配置をご家族にお手伝い頂き、その方らしい部屋作りをしている。又入居後も作品や写真を飾ったり、個々の居心地の良い部屋作りをしている。	自宅から家具や衣装ケース、鏡台等を持ち込んでいる。ポットや急須を置き、寛いでいる様子が窺える。事故防止のため、ベッドマットを個々の用途に合わせて組み合わせている。夜間使用のポータブルトイレも職員手作りのカバーで覆い、人目に触れないよう配慮している。職員は清掃、寝具交換等を行い環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を生かした生活が出来るように、1階2階すべてを互いに利用できるように制限せず、		